

# 立志だより



立志・自主・勤勉

与那原町立与那原中学校  
校長 當間 保

教育目標 ○創意工夫して、よく学ぶ生徒 ○豊かな心を持ち、思いやりのある生徒  
○進んで自らを鍛え、最後までやり遂げる生徒

## 与那原大綱曳まつり「図画・作文コンクール」表彰式

9月27日(土) かなちホールにて「第43回与那原大綱曳まつり図画・作文コンクール表彰式」が開催されました。与那原町では、夏の祭典「与那原大綱曳まつり」を小中学生が図画・作文で表現することにより、郷土文化に対する認識と理解を深め、愛郷心を育むことを目指して、毎年このコンクールを実施しています。今年本校から、作文182点、図画9点のエントリーがあり、金賞に5名、銀賞9名、銅賞12名が入賞し、照屋 勉町長、垣花英正教育長から賞状と賞品が授与されました。中学生作文の部・金賞の3年又吉 絢香さんの作品がとて素晴らしいので、全文をご紹介します。



### 中学生の部 金賞受賞作文 「大綱曳と地域」 3年 又吉 絢香

私の住んでいる町では、毎年夏に伝統的な祭りが行われ、その中でもイベントとなっているのが「大綱曳」です。私は小さい頃から毎年参加していて、綱を引いています。今年も例年通り参加しましたが、これまでとは少し違った視点で大綱曳を見つめていました。というのも、最近の社会の授業で「地域おこし」や「地域の過疎化」といった問題について学んだからです。今年の大綱曳も、青少年広場にたくさんの人が集まり、子供からお年寄りまでが力いっぱい綱を引いていました。

地域の方々や観光客の人たちも加わり、とてもにぎやかでした。綱を握り、ホラ貝やドラが鳴り響き、一人ひとりの力が合わさって、大きな綱が少しずつ動いていく感覚は、何度経験しても感動します。また、金鼓隊やメーモーイの合図とともに、祭り全体の氣勢を盛り上げてくれました。勝敗も大切だけど、それ以上にみんなで力を合わせる大切さと楽しさを改めて感じる時間でした。そんな中で、ふと思ったのは、もしこの行事が産業祭りのように人手不足や観光客が減少した影響で中止になってしまったように、中止や最悪の場合なくなってしまうのだろうかということです。

社会科の授業で学んだように、今、多くの地域では少子高齢化が進み、伝統行事を続けることが難しくなっています。若い人が都市に出ていき、地域に残る人が減ると、綱を引く人も準備をする人も足りなくなってしまうかもしれません。もしこの町でそうってしまったら、大綱曳はどうになってしまうのでしょうか。しかし、今年の祭りでは若い人たちが積極的にボランティアをしていました。与中の2年生の方々がメーモーイや金鼓隊をして会場の雰囲気盛り上げているのがとても印象的でした。「こういう場がまさに地域おこしにつながるんだ。」と実感しました。私自身、これまでは「楽しい」から、「毎年参加していて恒例だから」といった気持ちで参加をしていました。でも、今年はこの行事が、町の活気を守るためにとても大事な役割を果たしていることに気づきました。観光客が集まることで、町ににぎわいが生まれ、人と人とのつながりが強まります。また、若い人が関わることで、次の世代へ伝統が受け継がれていくことにつながります。まさに、社会科の授業で学んだ、地域の自立と発展に通じていると思いました。他にも、ある地元の人が、「昔は祭りに人が集まるだけで十分だった。でも、今、それをどう次につなげるかを考える時代だよ」と話してくれたのが印象的でした。

私はこれまで自分が楽しむ側だったけど、これからは支える側としても関わっていきたく強く思いました。大綱曳という一つの伝統が地域の人々を結びつけ、町を元気にしています。そして、それは何十年、何百年と続いていた人々の思いの積み重ねでもあります。私は、この伝統を次の世代にしっかり引き継げるように、できることを少しずつ、まずは祭りに参加して地域の人とのつながりをつくり、町を元気にする力に変えていきたいです。

